

市民リポーター  
東海林裕雅さん

●しろうじ ひろまさ  
若草町在住。18歳。  
登別市出身。登別南高校  
3年生。現在、同校の新聞  
局員として、新聞づくりに  
取り組んでいる。



▲若山町の一面に豊かな生態系を残す『キウシト湿原』

# 未来へ引き継ごう キウシト湿原

## キウシト湿原の保存と利活用

### 若山町に残された湿原 なぜ、保存が必要なのか

私が通う登別南高校の正面、道路を挟んで海側（総合体育館と道南バス(株)若山営業所の裏手）に、JR室蘭本線の線路に沿うように広がる緑の一面を、みなさんは知っていますか。

この一面が豊かな生態系を残し、学術的に貴重な湿原といわれる『キウシト湿原』（※1）です。この身近にある決して大きいとはいえない緑の空間に何があり、私たちにとってどんな価値があるのでしょうか。

はじめに、湿原について研究し、ま

登別はその昔、山すそから太平洋岸一帯が湿原でした。市街化や宅地造成などで、その多くが失われた今、若山町に残された4.2%ほどの湿原が注目されています。

湿原の専門家やこの湿原に関わって活動する団体の方などを訪ね、『キウシト湿原』とは何か、その保全や利活用をめぐる検討についてレポートしました。

たキウシト湿原を調査し、論文などを発表されている札幌市立高等専門学校助教授の矢部和夫さんに、キウシト湿原についてお話を伺いました。



矢部和夫さん

「この湿原は、単なるヨシ原ではありません。高さ30〜40センチほどのワラミズゴケ（※2）のつくるハンモック（※3）が群生するなどの高層湿原



市民リポートは、市民のみなさんが自由に発想・企画するページです。

（※4）の要素を含む中間湿原で、このような低地の湿原としては、北海道の最南限に当たると考えられます。また、この湿原は登別の原風景をとどめ、環境省から絶滅の恐れがあるととしてレッドデータ種に指定されている動・植物も確認されています。道内の多くの湿原が消失された今、この湿原は、とても貴重ですね。こういった自然環境は、いったん破壊してしまうと、たぶんな人の一生ぐらいの時間では、回復しないでしょう」と、矢部さんは、若山町の湿原の貴重さを強調します。

この湿原の学術上の意義は、かなり専門的なもの。しかし、登別に残る数少ない原風景、そして絶滅の恐れがある動・植物を観察できる大切な空間であり、決して宅地などにはしてほしくないと思います。

※1 キウシト湿原：「キウシト」は、アイヌ語でカヤ・群生する・走り根を意味する『キウシト』にちなんだもの

※2 ワラミズゴケ：雨水と霧によって成育するミズゴケの一種

※3 ハンモック：ミズゴケの遺体が堆積し